



MITO ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT



(2013-14年度 国際ロータリー・テーマ)



登録有形文化財「旧町屋変電所」(常陸太田市町屋)

ゾクゾクするよな音楽家

松井 忠重 (音楽)

年に数回、背筋がゾクゾクするような瞬間があります。それは、とてつもなく良質な音楽に出会った時です。何故か日本人の作品にはあまり感じることはなかったのですが、数ヶ月前、或るドラマのバック音楽（通称劇伴）を聴いた瞬間、この感覚を味わいました。直観的にこれは日本人の作・編曲家であり、年齢は40代前半、元来はポップス出身者で、その後クラシックに転じた方であろうと想像しました。

まず、日本人と感じた理由は、旋律が日本の(相当洋楽的ではあるが)であること、年齢に於いてはリズムの創り方が、新鮮でありながら熟練されていること、これは1980年代のリズムを知っているという事実です。詳しく説明すると、この時代が最もリズムに於いて発展し、様々な試みがなされた時期であったからです。例えば、16ビートが完成し、黒人のリズムを取り入れた「跳ねる16ビート」も当たり前となり、ラムゼイルイス等が32ビートに挑戦したりと、画期的な時代でした。これ以後は新しいリズム形態は出て来ていない状態にあります。これらのリズムを実体験している世代は、現在40代を超えているからであり、我々年代よりはやや新しい息吹を感じられたという意味から、年代を判別しました。更に、ポップス出身と思えたのは、リズムの捉え方、そして、シンセサイザーの扱いも非常に良く知っている、これは、ポップスに相当傾倒しなければ、これだけの音は出し得ないと感じたからであります。それでながら、オーケストレーションも難なくこなし、更に和声の扱い方は古さも知り、現代音楽的な斬新さも持ち合わせている、だからクラシックも相当勉強した筈だと、確信し

たからです。

即、調べてみると、40代前半、東京音楽大作曲科卒。(多分、東京芸大を落ちたのかな？それは、最初からクラシックを目指していなかった為と勝手に想像してしまいます)しかし、東京芸大でないのが非常に納得、何故なら私の私感として、音楽は権威とは無縁だと感じているからです。(その昔、NHKは相当権威主義でした、今は違って來てるみたいです)

この作家は現在、映画・ドラマ等の劇伴作家で、その世界では相当有名だと思われますが、一般的にはまだまだ、無名です。しかし、彼の持ち味は何といつても、驚くべき格調高い和声感覚と、知的さが漂う音の配列、なかなかこれだけの譜面を書ける方はそうぞらにはいないでしょう。有名人で文化人だと思い込んでる音楽家は、名前だけではなく、眞の実力を持ち合わせないと生きていけない時期に入っていますよ、と伝えたい心境です。勿論、聴き手も有名無名でなく、本当の聴く耳を持って、この様な作家を認めて行く環境を創り上げて頂けたら面白いになると感じています。(本当の聴く耳を持つということは相当、努力も必要ですが)

彼のようにポップスもクラシックにも精通している、新しいタイプの音楽家が出来るのは、必然の現象と言つて良いでしょう。(何故ならもう殆ど両者の垣根は取り払われているからです。ポップスが相当成長したということです。)

彼のような曲が万人に愛されるのはまだまだ、時間が掛かるかも知れませんが、どの様な軌跡を辿って行くのか、楽しく見守って行きたいと思っております。

No. 11 2013・9・17

1951年3月6日設立
1951年3月15日RI認証

■事務所

〒310-0021 水戸市南町2丁目5番5号 常陽銀行本店 別館5階
TEL.029(231)2151(代表) 直通(225)4820 FAX.029(225)4825
E-mail r.i.mito@sage.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.mito-rc.jp/>

水戸ロータリークラブ

■会長 小林大次郎 ■幹事 川名 信博

■例会日
毎週火曜日・12時30分
常陽銀行本店8階



に描くか、たいへん興味深い。

改めて振り返ると、昨年12月に安倍総裁率いる自民党が政権与党に返り咲いて、リフレ派と呼ばれる経済ブレーンからの指南を踏まえ日銀に突きつけた注文は、かなり強硬なものだった。日銀法改正も辞さないとして、インフレ目標の導入を迫った。総裁交代のタイミングに合わせ、「金融緩和に積極的な人を投入する」とした。安倍総理にとっては、どうしてもアベノミクスを成功させ、デフレから脱却し、強い経済を取り戻すきっかけを作らないと、その他の政策に国民の支持が得られない。そのためにも日銀には大きく変わってもらわなければならなかつた。

デフレ脱却を目指した現在のリフレ策は基本的には貨幣数量説の考え方によっている。すなわち、デフレは貨幣的現象であるので、中央銀行による通貨の供給によって解消しうると考える立場である。古くはアービング・フィッシャー、アルフレッド・マーシャル、その後もミルトン・フリードマンやポール・クルーグマンなどに受け継がれている考え方だ。マネタリズムと呼ばれるこの考え方に対しては、「現実社会はそんな単純なものでない」として実務家（中央銀行家等）や学者の中でも、これまで必ずしも完全に共有されている考え方ではない。しかし、経済学の教科書には必ず紹介されている。すなわち、中央銀行から出していくお金（マネタリーベース＝現金+中央銀行に預けられている民間金融機関の当座預金）が増加すれば、その一定割合で、世の中で保有されているお金（マネーストック＝現金+世の中で保有されている預金）も増加し、物価が上昇する、という

ものである。マネタリーベースとマネーストックとの関係を示す係数が貨幣乗数と呼ばれるものである。この貨幣乗数が現実社会では一定していないのが最大の問題なのであるが、この立場の論者の多くは、そんなことは気にしていない。実は、現在わが国で流通している現金の残高は約90兆円あり、これは大きく変化しない。したがって、民間金融機関が日銀に預けている当座預金（現在は約90兆円）が膨れるとなぜ世の中で保有されている預金が増えるのか？そのためには、民間金融機関の貸出が増えていかなければならない。

かつて白川前総裁は、「マネタリーベースとマネーストックとの関係は今や断たれている」と語った。こうした状況下でマネタリーベースを増加（現在前年比3割程度で増加中）させても、マネーストック（現在前年比4%弱程度で推移）はそれほど増えない。むしろ、そうすることに伴う副作用に留意すべきだと語った。副作用とは、日銀当座預金を増やすための日銀による国債の大量買い入れが財政規律を損なうとともに、財政赤字を穴埋めしている（＝財政ファイナンス）と市場に目されてしまうと、国債価格が暴落するほか長期金利が急騰する。そうなると、金融緩和の効果が損なわれ、元も子もないと考えた。一方、黒田総裁、岩田副総裁の下での政策委員会は、貨幣乗数は一定でないとしても、マイナス（逆相関）ではない以上、マネタリーベースを増やし続ければ、マネーストックは結果として伸びるだろう、今は、国債市場は安定的で、財政ファイナンスを心配する時ではない、としているようだ。白川前総裁が中央銀行として、これ以上深入りしてはならないとした領域に、思い切って踏み込んでいった格好だ。これは、中央銀行としてより多くのリスクを背負い込んだということである。

では、こうしたリスクを冒してまで黒田日銀が目指すものは何か。過去15年間わが国経済がデフレから脱却できない姿に終止符を打つことだ。そのための手段として「量的・質的金融緩和」と称して民間金融機関から国債（年間50兆円）などを買い取ることにより、マネタリ-

ベースを倍増させる（138→270兆円）。また、残存期間の長いものも含め購入の銘柄も増やす。そこまで、マネタリーベースを増加させれば、さすがに2%の物価上昇は実現できるだろうとの試算に基づいている。その背景としては、潜在成長率を上回る成長率が数年間継続することで、デフレの原因となっている需給ギャップが埋まり、プラスに転化することが欠かせないが、それだけでは不十分である。人々の物価上昇予想、すなわち人々のインフレ期待が高まっていることも前提としている。この、期待に働きかける政策というのも、かつて経済学でよく研究されたテーマであるが、これも実務家の間ではどちらかと言うと懐疑的にみられていた。少なくとも白川前総裁はそのようにみていた。ところが、黒田総裁は、使えるものは何でも使う、戦力総動員（戦力の逐次投入はしない）との立

場だ。

この政策を導入して5ヶ月が経過した。足もとまでの動きとして、金融、経済・物価、期待の面で好転が窺われる。すなわち、金融面では、金融市場や企業金融の好転が窺われる。株価、長期金利は良好である。銀行貸出が僅かではあるが増加、貸出金利が史上最低の水準で推移している。予想物価上昇率の上昇により実質金利の低下が促された。経済・物価面では、個人消費は底堅く、設備投資は持ち直しに向けた動きが窺われる。消費者物価上昇率もプラス幅が拡大している。期待の面では、消費者マインド、企業の業況感が改善した。わが国経済ができるだけ早期にデフレから脱却し、長期的・安定的な成長経路に復していくことを切に期待している。（発言中、意見にわたる部分は卓話者個人のものである）

例会報告

9月第3例会

司会 宇都宮委員

◇ ビジター紹介

五十嵐会員

水戸西RC……1名
(ビジター 1名)

会員数	出席数	欠席数	本日の出席率
117名	77名	40名	70.64%

前週訂正出席率 85.32%

前々週訂正出席率 80.73%

◇ 会長の時間

小林会長

昨日ホーチミンから帰って来ましたが、台風の影響で飛行機が揺れましたが無事帰国しました。

現地では大変歓迎を受けました。また、エースコックのボランティアが30名程いましたが、献身的な歓迎を受け無事ミッションを終えました。学校から感謝状、エースコックから記念の盾をいただきました。

アンさんはボランティアの中でも中心的な役割をしており嬉しいことでした。

今回のミッションは後で詳しく報告があると思いますので宜しくお願ひします。

今日の卓話の尾家さんに時間をたっぷり使ってもらいますのでこのへんにします。

◇ 出席報告

五條委員長

◇ 会員メークアップ

9/12~15 国際奉仕活動（ベトナム）

小林大次郎、川名 信博
櫻場 誠二、衣笠 勤
秋山 現信、成田 浩明
神尾圭太郎

9/16 日本REC2650 高貴 修

◇ にこにこBOX

宮久保副委員長

小林会員……お陰様で無事ベトナムに行って参りました。

秋山会員……無事ベトナムより帰国しました。

アンさん、元気でした。

尾家会員……卓話をさせていただきます。よろしくお願ひします。

宇都宮会員……本日、司会を務めさせて頂きました。よろしくお願ひいたします。

益子会員……娘が結婚しました。初めて花嫁の父となりました。

黒田会員……今月を持って60年間過ごした水戸を離れ高崎に住むことになりました。ロータリーは継けさせて頂きます。よろしくお願ひします。

内藤会員……スワローズ、バレンティンがホームランを打ってくれました。

本日の合計	7 件	40,000円
-------	-----	---------

◇ 幹事報告

川名幹事

1. 本日、ロータリー情報委員会・友好クラブ交流委員会の合同家庭集会が開かれます。委員の方のご出席をお願い致します。
- とき 9月17日(火) 18:30
ところ 山口樓本店
議題 1) 今後の3ヶ月間の委員会事業進捗状況について
会費 6,000円

2. 第3分区親睦ゴルフ大会が開催されます。
詳細は、荻原ゴルフ同好会幹事までお尋ね下さい。
- とき 11月11日(月) 7:00
ところ 静ヒルズゴルフクラブ
(常陸大宮市小場5766)
参加費 5,000円
ホストクラブ 水戸さくらRC
※水戸さくらRCの例会が開催されますので、参加者はマークアップとなります。

3. 「ロータリーの友」英語版 2013-14年度版をご購読下さい。 — 雑誌委員会 —
日本のロータリー活動やロータリアンの皆様の意見を知りて頂く為、「ロータリー友」誌からの転載や海外向けの独自の記事を掲載しています。特に英語俱楽部のメンバーは、必携と思われますので是非ご購入下さい。

*11月発行 1冊 525円
*締切 10月15日(火)
*現在お申込み頂いた会員
石井、横須賀(満)、大久保、川崎、砂押

4. 下記の方々が、米山功労者になられました。
- 石井 隆志会員 (第10回) メジャードナー
藤田 治之会員 (第4回)
砂押 憲正会員 (第4回)
川名 信博会員 (第2回)
岡崎恵一郎会員 (第2回)
益子 一彦会員 (第1回)
沼田 元良会員 (第1回)
齊藤 元司会員 (第1回)



ベトナムより盾と感謝状



週報担当 和田幾久郎 委員

例会予告

9月24日(火)
卓話 —イニシエーションスピーチ—
「ミソピーナッツの食べ方」
宮田 武範 会員
「ロータリーEクラブの利用法」
高貴 修 会員

10月 1日(火) 於 三の丸ホテル
卓話 —イニシエーションスピーチ—
「『ジャパニーズウィスキーの父』竹鶴政孝について」
柳原 行生 会員

10月 8日(火)
卓話 「米山奨学生現地採用について」
地区米山記念奨学会寄付増進委員
秋山 現信 会員

…… 例会欠席の方は、4日前までに事務局までご連絡下さい。……